

## 富山県中山間地域創生総合戦略検討会 議事概要

### ○日時

令和6年9月5日（木）13:30～15:00

### ○会場

富山県民会館 704号室、オンライン

### ○議事

- (1) 第2期中山間地域創生総合戦略骨子（案）について
- (2) 第2期総合戦略策定に向けたスケジュールについて

### 【議事概要】

（西村座長）

委員の皆様には、事務局の説明を踏まえ意見を出していただけると、第2期戦略の素案に反映できるのではないかと思います。自由にご意見ご提言をいただきたい。

（島田委員）

私が実践・経験していることも踏まえた上で、こうしたらいんじゃないかという意見をお話する。

まず「県民みんなでつくる『持続可能な中山間』」が中山間地域の目指す姿として掲げられているが、中山間地域は県民だけではなくもっと広く、みんなで守っていく必要があると思う。具体的な施策の中にも「関係人口」という観点が含まれている。もう少し工夫し、県民よりもっと広いみんなで取り組みましようということが感じられるようにしたほうがよいのではないか。

具体的な施策の展開については記載が農業と林業で分かれている。林業においてもスマート林業等の近代的な技術は結局何のためにやるのか、それをどう社会全体として繋げていけるのかということが課題となっているが、農業だけで止まっている、林業だけで止まっていることが多い。より一体的な記載にする必要があるのではないか。

エネルギーについても条例で取り組むこととされているが、小水力発電くらいしか触れられていない。エネルギー問題は非常に重要であり、どうやって農村地帯のポテンシャルをお金という点だけでなく、中山間地域のパワーに変えていけるのか、水や水路などの活用という点についても農業と林業の連携による一体的な取り組みを促していくような内容があるとよいと思う。

その辺りを踏まえると、施策の方向性の(3)と(4)の項目は社会インフラに近い。住民自身に頑張っ欲しいことと社会インフラ的なものがあるということを経済の中で住民にどうやって伝え、自分ごとにしてもらえるのか考える必要がある。自然を住民の力だけで守るのはほぼ不可能で、公共交通も同じく難しいと思う。その温度差がこの（施策の方向性の）4項目にはあるように感じる。

また、中山間地域においていかに横連携をとるのがすごく課題だと感じている。我々が井波地域で活動し始めたのが2017年くらいで現在7年ほど経過しているが、やはり時間がかかる。そういった点からもロードマップを中長期で考えて取り組むことが必要だと実感しており、戦略期間の5年間で解決できない問題も多いと思う。その点でこの資料（資料1『第2期中山間地域創生総合戦略』策定に向けた『住民主体の地域づくり』の課題）は非常に分かりやすくよいと思う。やはり地域ごとに課題は千差万別で地域の数だけ課題がある中、どうやってポイントを抽出して具体的なプランに導けるかが重要だ。

自分たちもそうだが、住民として地域にいて何がしたいのか、何が大切なのかが見えなくなると、その問答を延々と繰り返して時間がかかってしまう。戦略でもその辺りについて人材といったポイントを押さえて1つでも多く具体化していくことが必要ではないか。

先日もあるコンテストを拝聴させていただいたところ、皆さん思いは僕らと一緒にだと思ったが、やはりお話ししていくと結局何をしたいのかな、もうちょっとそこを絞ったらもっといいものになるのにな、というところで止まってしまふことが多かった。そういう点を解決してあげるところから10年かけてやっていくストーリーが必要だと感じている。このような分析をして、この流れの中でこの地域はここに問題あるということを示すことができれば、各地域は自分たちがこの辺りだな、このサポート受けられるなということが具体的に見えてきて取り組みやすいのではないか。

（佐藤委員）

私からは3点、1つ目は住民主体の地域づくり、もう1つは田園回帰の潮流、そして若者参加についてお話ししたい。

住民主体の地域づくりについて、小規模多機能自治を含めた地域運営組織の形成が進んでいることはとてもいいことだと感じた。この割合をぜひ増やして欲しいと思う。現在は72の組織ができているということだが、これは県全体の何割の組織が地域運営組織に移行しているのかということは、この数字からでは分かりづらい。第2期の総合戦略ではぜひ富山県内に存在する自治振興会等の組織が地域運営組織にどの程度移行しているのか、5年後どこを目標とするのかを数字で示して欲しい。

私の暮らしている地域は、立山町に合併される以前の昭和29年までの村という単位で現在の自治振興会と社会福祉協議会が存在している。その下にもう廃校となってしまった2つの小学校の地区があり、現在は、さらに統廃合先の別々の小学校に通う形になっている。そのような状態の中で話し合いに持っていくことは大変難しく合意形成しづらい地域となっている。現在の状況を反映した形での地域運営組織を作るサポートが何か必要ではないか。

今、話し合い促進事業であったり、チャレンジ支援事業であったり、農村RMOに手を挙げられる地域というのは、ちゃんと話し合いができる状況の地域だと思う。そこに手を挙げられていない、こぼれ落ちてしまっている地域がある。まずは各集落という小さな単位から「話し合い促進事業」に手を挙げるのが可能となるよう、支援対象者の条件を緩和して欲しい。

田園回帰の潮流について、地域おこし協力隊ネットワークの立場からお話させていただくと、この5年間で県が自治体向けの地域おこし協力隊マニュアルを作成して下さった

り、OB・OGのネットワークを立ち上げるサポートをしていただいたりと心から感謝している。

ネットワーク設立1年目で動いている中で、多くの受け入れ自治体と地域がこの制度を理解せずに隊員を呼んでしまうことが、多くのミスマッチに繋がっていると感じている。現在の自治体向けの冊子はしっかりとした分厚いものなので、もう少し薄い受け入れ地域住民向けのマニュアルが必要だと感じている。地域おこし協力隊制度の説明から現在の感覚でのパワハラ、セクハラの説明まで、受け入れ地域住民に知っておいて欲しいことはすごくたくさんある。

また、富山県内でもたくさんの地域で「集落の教科書」という暮らしのガイドマップのようなものが作られている。集落の教科書は、聞いていなかった、知らなかったというところから来るトラブルを防ぐ意味でもとても大切だ。移住相談が増えている、田園回帰の流れがきている今だからこそ、地域おこし協力隊の受け入れガイドマップや集落の教科書のような田舎暮らしの見える化と地域住民の受け入れ態勢を整えることが必要になってくると感じた。

最後に若者の参加だが、第1期総合戦略の施策評価を見ていると、地域の自治組織内での男女比や若者の率という項目はなかった。組織内での男女比、若者の率という新たな項目を増やして欲しいと思う。県が目標を示さない限り若者や女性が地域の組織に入る流れにはなっていないのではないかと。30代から50代の意見が反映されていない話し合いでは、未来への話し合いが行われていると言えないと思う。

(品川委員)

モビリティ関係の仕事をしていただいているのと、富山商工会議所の方で富山市のスマートシティとデジタルを活用したまちづくりを担当させていただいているので、そういった観点で意見をいくつか申し上げたい。

私も3つあり、1点目が公共ライドシェア、2点目が中山間地プラットフォーム、3番目がされどコンパクトシティということでお話しする。

まず1点目の公共ライドシェアについて、ちょうど今日の新聞にも載っていたが、中山間地域の地域交通サービスについて、やはり生活必需品としての買い物支援の観点からオンデマンド交通を積極的に導入、地域住民の皆さんが自家用車でお互い送迎をするというまさに共助の考え方をもって自家用車のライドシェアの導入を検討するべきではないか。自家用有償旅客運送、公共ライドシェアと国交省は言っているが、現在、導入しやすくなってきている。市町村に対する導入促進や政府も推進しているその運用を検討するプラットフォームの設立を図り、全中山間地域において積極的に導入していくべきではないか。

2点目に申し上げた中山間地プラットフォームについては、具体的には高齢者の方にも使いやすい、ボタン押すだけのiPad的なタブレット端末や、その端末で動く中山間地域向きのアプリケーションをぜひ、これは行政負担になるかと思うが、導入・配布して、中山間地域の生活オンラインネットワーク、例えば電子回覧版であるとか、ボタンを押せば水や食料といった欲しいものが頼めて、クレジットカードを登録しておけば支払できるような、そういう仕組みを導入できないか。地域コミュニティをこのプラットフォームで運用するというこ

とをチャレンジングではあるが導入し、そのプラットフォーム上でいろんな民間や地域社会の知恵を生かしていくということが必要ではないか。

今後残念ながら人口は減っていく。全ての中山間地域の人口を維持するとか増やすとか言ってもこの先限られた予算の中では非現実的なところもある。人口が減っていく前提だけれども、規制緩和やデジタル化、ITを活用し、そこで暮らす方々の必要最低限プラス $\alpha$ のものを維持していく、そのインフラを整えていくということが必要ではないかと考える。

3点目のされどコンパクトシティについては、現在富山市の方でそういった仕事をさせていただいて、昨日の成長戦略会議でも少しコンパクトシティの話が出ていたが、森前富山市長が富山商工会議所で口酸っぱく仰っていたのが、決してコンパクトシティというのは中山間地域の切り捨てではないと。むしろ団子と串で公共交通の拠点や駅周辺に経済も人口も集積することで、まず地価が上がり事業活動が盛んになり税収が増え、そして消費が盛んになってにぎわいが生まれ、また人が集まる、関係人口も増やしやすくなると。その増えた地方税収で中山間地域に特色ある、魅力ある重点政策をおこなっていくというのが、森前市長から聞いていたコンパクトシティ政策なので、やはりその流れを県内の各市町村においても推進すべきでないかと思う。

富山県は全市町村に鉄道の駅がある。そこからの2次交通も含めて体系を作り、そこにある程度の集積を作り、そこで稼いで、中山間地域に先ほど言った公共ライドシェアの補助金を出してもいいし、中山間地域プラットフォームのインフラ整備やその運用、アシストする人たちの人件費にしてもいいし、そういった中で、特色ある地域を作る、その地域にしかない産業を育成することに投資していく。その団子に集まる地域と、それ以外の外側の地域についてはプラットフォームで最低限プラス $\alpha$ を維持しながら、特色を生かして必要なところには重点的に予算を投入していくという、メリハリを効かせた地域運営・地方運営をしていくべきではないかと考える。

(弓野委員)

私は日々中山間地で生活している中で身近に感じていることだけしかお話できないが、まずは鳥獣被害についてお話ししたい。朝日町は電気柵の導入が1番進んでいると言われていて、イノシシの被害はほとんどなくなった。これは電気柵のおかげだろうとみんな言っている。ただその分、猿がものすごく増えていて、猿は電気柵を怖がらない。数人の方からお話を聞いてきたが、スイカや今年の夏野菜はほとんど猿のために作ったようなものだと言われている。ほとんど収穫できない状況だった。中山間地の中ではどうしようもないことなのかなという思いはあるが、猿の被害の話が出ない日はない。

また、朝日町は県の中では地域おこし協力隊がたくさんいる町だと思っている。たくさん来ていただいている中で、3年間の任期が終わるとほとんど町を出ていかれることが続いていたが、ここにきて「朝日町いいところだから生活を続けるよ」ということで、今年は女性2名が空き家を買って、今年3年目でまだ任期中だが、来年から朝日町の住民として残って頑張りたいんだって言うてくださっている。みんなから聞いて鳥獣被害のことは不安がっているが、2名とも中山間地のど真ん中で生活してくれている。

私は地元の大体 20 人くらいで農事組合法人、農産加工品の会社をしており、21 年目を迎えるが、ずっと順調にやってきた中でコロナ禍を迎えてどん底に落ちてしまって、今もまだ這い上がれないくらいの中で頑張っている。先ほどの説明資料の中に皆さん 3 年間の補助金を活用して行動しておられると書いてあったが、私たちは補助金を貰って助けてもらったことがない。この補助金はどうすればいただけるのかを教えていただけたらと思う。

(宮田委員)

私は富山市の旧大沢野地域の方で有機農業をやっていて、お米と大豆を中心に大体 60 ヘクタールぐらいの土地を経営している。その中からお話をさせていただきたい。

中山間地で農業をするということに関して、資料では ICT だったりとかスマート農業だったりとか、薬用植物だったりができますよといったことが書いてあるが、実際のところ薬用植物にしてもやはり土地を選ぶし、スマート農業にしても、なかなか活用してもコストの割に全然ということで難しい、取り入れられない部分があったり、圃場条件とかそういった点でもそのまま受け入れられる状態ではないかなと思っている。

ただ、中山間地で農業するのはなぜなのかというところがある。私たちは大沢野の中山間地でも平場でも田んぼをしている。そうなってくると経験のある従業員ほどなぜ中山間地でわざわざ苦労してお米を作っているんだ、コストパフォーマンス合わないし、という疑問を持つようになる。中山間地の分を他でカバーして農業をやっているという実態があるので、電気柵も張らなきゃいけない、草刈の回数も増えるといったこともあり、従業員の方からもそういう話が出てくる。

じゃあ中山間地でわざわざ農業をやる意味は何なのかといたら、やはり消費者の方にその部分を余計に理解していただいて、付加価値を出した農産物を作っていくことではないかなと思っている。

私たちも有機農業という付加価値は付けているが、それにしてもやはり平場の方が収量が良くて品質の良いものができるということが分かっているので、それだけではなかなか良さというのは売り込めない。なので、今は循環型をもう少し推進できないかなと思っている。エネルギーにしる資材にしる、木質のチップや穀殻とか、そういうものをなるべく近場のところで手に入れて、それを農園に取り入れて、そこから生産したのに関しては、こういうことをして作ったものですよというストーリー性を出して、それを理解していただける消費者の方に率先して売るといようなマーケット作りができていけばもっと広がっていくんじゃないかなと。

温暖化は中山間地だけではなく世界中の問題でもあるし、CO2 削減やメタンガス削減について中山間地ならではのやり方で、知識的にも広めていくことができればいいのかと思う。

中山間地が注目されている部分もあるが、やはりみんなで負担を按分して維持するのではなく、中山間地自身が何らかの価値というものを、お金だけではないが、見だして発信していく、そこにこだわりを持ってくれる若者が引きつけられればいいのかと思う。万人受けする必要はないので、中山間地域各々の魅力に、そのニッチなこだわりに惹かれる若者が来てくれれば、それが魅力になっていくのではないかなと考えている。

(金子委員)

今回示していただいた骨子案については様々な、多様な視点を盛り込んであり、重要なことが一通り揃っており、素晴らしい骨子を描いていただいているなど第一印象で感じた。

その中でも特に私も関わらせていただいている話し合い促進事業については、取り組んだ地域の9割ぐらいが何かしらの新しい行動に移している、アクションプランの実現に至っているというデータが素晴らしく、費用対効果という点でも素晴らしいと感じている。

実は昨年地元の新潟市秋葉区の全11地区でも同様にビジョンづくりをして、今年に入っただけで先日フォローアップ調査したところ、こちらはなんと100%、全ての地区が新しい動きを始めているという成果も得られたので、この動きはしばらく集中的に続けるといいのではないかと感じている。

基本的には本当に素晴らしい戦略を描かれているなどという前提のうえで、少し細かい部分でご検討いただきたいことがある。それに関連して少し余談ではあるが、つい先日共同通信社の全国の首長アンケート調査の結果が発表され、政府は地方創生に10年ほど取り組んでいるが、その成果に対する満足度として「不十分だ」と答えた首長さんが7割ぐらいいる。特に単独での取り組みにはもう限界があると、国策をもう一歩踏み込んだものにしていかないと地方はますます疲弊するばかりだという、もう悲鳴に近い声があるところでもはっきりと見えるようになってきている。

もう1点特徴的だったのが、女性と男性の社会的な格差というのが人口流出にかなり加担しているのではないかとという観点があったので、注目すべきではないかと思っている。

このように、はっきりと地方創生10年間の一旦の評価が出たところで、それが十分ではないことがかなりはっきり示されたので、国もさらに踏み込んで、地方創生を超えるぐらい、これまでの施策を超えるぐらいのものを打ってこざるを得ないのではないかと私は予測と期待をしている。そこで、さらに富山県が率先して踏み込んだ、言ってみれば中山間地というのはどんどん力が失われていく地方の象徴的なところであり、その地域こそが次の仕事とか暮らしのフロンティアになるんだというぐらいの気概を持った戦略をここで出していくことが重要なんじゃないかと考える。

そういう意味からいくつか注文を出させていただくと、中山間地域の多面的機能の維持という話がまず冒頭にあるが、それは従来から言われている、どちらかというと少し古い感覚で、もちろんそこに挙げられているのはすべて中山間地域の機能だが、そこに生産活動の場があるなど、新しい暮らしを考えていくフロンティアのような価値を与えていく必要があるのではないかと私は非常に感じており、例えば、生産活動の場についても多面的機能の1つとしてしっかりと踏まえてもいいのではないかと思う。関係人口1000万人は素晴らしい目標だと思うが、そういうことがあった上で関係人口というのは初めて生きてくると思うので、ご検討いただきたい。

また、いろいろ重要な施策がある中で、特に現地にある資源で活用可能なものにもう少し光を当てるべきだと思う。具体的に言うと空き地とか空き家であるが、保全が難しくなっている農地やすごく立派な作りだけれども使ってくれる人がいない建物とか、そういったもの

を活用していくこと、これは基本的に市町村が集落の中で取り組むべきものではあるとは思いますが、そこをしっかりと県が後押しをしていくと。この会議の前に県の空き地や空き家のポータルサイト、とても綺麗でよくまとまっているものを拝見したが、その辺りをもっと強化するところを、具体的な施策の中に入れておいてもいいのかなと思う。そうなってけば移住促進といった施策との連携も出てくると思うので、市町村との連携強化についても重点的に謳うといいのかなと思う。

そして、コミュニティの強化という文脈の中で、「コミュニティの再生」という言葉を使っているが、そこに少し違和感がある。中山間地域は都市部に比べてコミュニティがしっかりとまだ残っているところが強みでもある。何をもちってコミュニティの再生と言っているのかというところが大事なかもしれないが、マイナスをプラスにする、マイナスをゼロにするといったニュアンスも再生という言葉からは感じられるので、もう少し踏み込んだ表現にできないかなと感じた。私の専門分野に寄せていくと「地域自治の強化」であるとか「地域経営の強化」であるとか、そのぐらいの表現を使ってもよいと思う。例えば「コミュニティをベースとした地域自治の強化」というような、そのぐらいの表現がいいのかなと思う。

似たようなところで、コミュニティビジネスの育成という表現があったと思う。コミュニティビジネスというと少しこじんまりとした、身の丈に合った小さなビジネスのようなイメージがあって、それはもちろんとても大事で、そういったところから起こしていくということはずらさないまでも、コミュニティビジネスなどの地域特性を生かした産業の育成、そこからビッグビジネスだって生まれることがあり得るんだみたいな、先ほど言ったように、これからが中山間地域の反転攻勢、復権の追い風がさらに吹くと思うので、そのくらい迫力を持った言葉を使ったらどうかと思う。

最後に、女性の格差が人口流出の大きな原因になっているという首長アンケートの結果を受けて、やはり女性に選ばれる中山間地域という視点をどこかに持っておいた方がよいのではないかなと思う。もちろん社会的な格差をみていくことも重要だが、子育てのしやすさなどは直接的に女性の心証に関わる場所でもあるので、そこも加えてみたらどうか。

(宅見委員)

今の金子委員や先ほどの品川委員、島田委員のお話は、その地域に住んでいる方がどういった課題を解決していくべきかという、課題も持っている主体者側のお話であったが、私どものケーブルテレビという、県内 100%の通信インフラを整備させていただいている立場で申し上げると、課題の主体者というよりも皆さんがどうやって課題を解決したいとか、先ほど品川委員が話されたプラットフォームを作って iPad を配ってアプリを作ってというところまで面倒をみると。上手にビジネスにするということではなく、やはりケーブルテレビは地域に根差しているの、高齢者が健やかに暮らせるように、元気でいられるようにできることはたくさんあるんじゃないかなと、感想に近いが思っている。

それからもう 1 点、先ほど鳥獣被害の話もあったが、私どもが農業関係のいろいろな取り組みをやらせていただいている中で耳が痛い話として、一定の規模があるところや人数がいるところだとかなり生産性が上がったよとお褒めいただくのに対し、そこまで規模が大きくな

い中山間地で取り組まれている皆さんのご苦勞を私どもがあまり分かっておらず、ひとくくりにスマート農業として取り組んでおり、理解がまだまだ甘いところがある。通信事業者はインフラを持っているし、ソリューションの提供もできるし、映像制作のチャンネルを持っているので、地域それぞれの課題に合った解決や、中山間地のスローガンとして示されている「みんなでつくる」ということに対して、県に補助金をくださいということでは当然なくて、ケーブルテレビとしても持ち出しをして、皆さんと一緒に取り組んでいく必要があると考えている。

あと、島田委員が話された林業について、私どもはご一緒に5Gで林業の生産性向上に取り組んだが、生産性向上に繋がりそうだな、安全性向上に繋がりそうだなという実証実験はできた。一方で、じゃあそれを踏まえて各事業所の生産性が向上したのかとか、付加価値が増えて事業がもっと大きくなったのかとか、経済規模が大きくなったのかというところがまだまだ甘い。そういった課題解決のお手伝いも通信インフラを持っている会社として大事なかなと思った。

(稲垣委員)

私は日頃サポート人材の育成と移住の取組みをやっているのですが、その観点から3点申し上げたい。

まず、住民主体の地域づくりの課題のところ、各集落、地域で専門家に話を聞きたいという要望があるようだが、これはぜひ観点1のところにある「サポート人材の育成」と連動しながら、県内にいかにこのサポート人材を増やしていくのかという観点と併せてお考えいただきたい。多分、協力隊のOB・OGの方、経験者がいるだろうし、あるいは集落支援員制度を活用してもいいと思うので、こういった観点で考えてもらいたい。

もう1つの地域間連携の課題については、取組みをされている地区、地域同士の情報交換・交流をぜひやっていただきたいと思う。D地域がC地域に学び、C地域がB地域に学び、B地域がA地域に学ぶとすることで、実は専門家がいない場合もあるかもしれない。

それから観点2について若者の所得の増大もあるし、観点1では移住者についての記載もあった。移住者の仕事の確保、あるいは担い手不足という課題もあるかと思うので、特定地域づくり事業協同組合についての記載がなかったが、いろいろな仕事を組み合わせてやることによって担い手不足を解消する、移住者の仕事を生み出す、あるいは若者の所得増大を図るといった点からお考えいただけると良いのかなと思う。

最後に観点3のサービスの確保についてである。子育て世代の方々が中山間地域に移住するのを各地で目にする中で、何に困ってくるかという「教育」である。資料には交通や買い物というサービスが書かれているが、教育の確保についてもぜひご検討いただきたい。

(前田委員)

まず企業経営者からすると、戦略なので、やはり勝ち筋、中山間地域の様々な課題を解決していくことも必要だがどうやって中山間地域を勝たせるかということだと思う。そうしたときに、まず優先順位、ある程度絞り込んで、会社の経営でいえば経営資源を集中させると



いうことは必要だし、そういう思想とか哲学とかテクニクがいるかなと思う。やはり時間とお金と人材が分散すると基本的に課題は解決されない。それは会社経営と同じである。その観点で、実際自分が中山間地域で1つの事業をやっている人間として、1つの事例として提案したいと思う。

昨日の成長戦略会議での安宅さんの話ではないが、スイスに学ぶべきだと思う。過疎化が進んでいるということは中山間地域は住民1人当たりの面積が非常に大きいエリアだと思う。一方でスイスは世界で一番付加価値の高い産業、水と空気が綺麗な環境を活用した精密機械が集積していて、そして世界的な観光リゾートがある。この2つが高付加価値産業としてあるわけで、日本アルプスのある富山がそういうところに学ぶ、すごくシンプルなベンチマークになるのではないかと思う。

それに対してやはり総花的になるというのは、誰かの批判を恐れていると思うが、産業を集積させて、ある種批判を受けるリスクを取って、高付加価値な産業、ビジネスを作ることが大事だと思う。

エリアイノベーションの木下齊さんが言っているが、合併などで地方自治体が消えることはあっても地域が消えることはない。地域が消えるときは経済が破綻するときだ。それは過去の歴史が全部証明している。やはり先ほどどなたかも仰っていたが、中山間地域だからこそその強みを発揮できる産業、ビジネスを作っていくということを一丁目一番地にすべきだと思う。歴史から学ぶべきだ。

そうした高付加価値な産業、ビジネスを作るとそこで雇用が生まれ、できるだけそこにウォークアブルもしくは、中山間地域を作っていく住民が増えて、その時には日本全体で人口が減っているわけだから、やはり国際化をしていくということで外国人の受け入れに関しても寛容である必要がある。そういう国際的な観光産業都市を中山間地域に作っていく、リトリートシティを作ることが僕は1つ勝ち筋としてあるのではないかと思う。

そのためにはライドシェアも含めた、モビリティに関する様々な規制緩和が必要だし、規制緩和後には国や県、基礎自治体の投資がいくつか必要だと思うが、まず一丁目一番地の戦略としての突破口を、産業を作るところに僕は集約させた方がいいと思う。

(西村座長)

これで一通り委員の皆さまからご発言をいただいた。追加でご発言があればお願いしたい。

(島田委員)

今の前田さんや品川さんの意見もそうだが、やはりコンパクトシティというのか、集中的に取り組むということが本当に大事だなと思った。私たちも小さな町だが、集中的にそこにもものを作っていくことで今まで来なかったような人たちが集まり始める、すると自然と人が来る、そうなる移動も必要になる、ということが起きてくるのを経験している。

コンパクトシティというのは悪いことではなくて、どうそれを捉えて自分たちが集中的にその地域に(人や財源を)落とし込めるかというのが原則なんだろうと思う。これは町でも村でもどこでも一緒だと思う。実際に目の当たりにもしているが、そうすると人が集まって

また次のものが生まれてくるということが起きてくる。じゃあ中山間に人をどうやって集められるかということを見ると、僕が今大事だなと思っているのは水と自然だ。富山県では水とともにインフラを整備してきた結果、安全に暮らせる環境がある。中山間のおかげですごくありがたい現状があって、他のエリアに行くと山の横にすぐ家があって、中山間がないので緩和する場所がない。

この中間があることが非常に幸せであり、おかげで住み続けられる基盤がある。なので、その中で産業を興していきましょうということを書いていく、書いていかないと今後災害に対処しながらどうやって生活していくのかということに追われて商売もできなければ暮らしも成り立たないという状態になってしまうのではないかなど。多分そうになってしまうのが普通の中で、富山県はインフラ整備をやっていただいたおかげでずっと住めるんですよね。そういったことも含めて世界の人に伝えていける素地はあるし、僕らも最近うれしいなと思っているのは「富山に行ったら井波に行け」と書いていただけの方がおられる。世界の方に「日本に行ったら富山の里山、中山間に行け」と書いてもらえるぐらいの場所に、中山間に磨きをかけられれば、どこにも負けない場所になるのではないかなと思う。

私も昨日の成長戦略会議を拝見させていただいて、可能性は中山間地域だというようなことを書いていらっしゃるんじゃないかなと思った。そういったことも踏まえて、「中山間地域に集中的に取り組んでいきますよ」といったことも何か謳って欲しいなと思う。

(前田委員)

本当に島田さんがおっしゃった通りで、課題解決もいいが、中山間地域の創生そして富山県には成長戦略会議があるので、中山間地域成長戦略会議ということで、世界的に人を魅了できるポテンシャルがあることはもう証明している人が山ほどいる。それをもっともっとブーストしていくということだけだと思う。

課題解決の前に成長の種をちゃんとしっかり捕まえてそれをブーストさせるという、プレーヤーとサポートする人、それと行政、この三位一体で。中山間地域には成長ポテンシャルしかないと思う。フレームワークと捉え方を変えないと。松下幸之助じゃないが「入るを量りて出ざるを制す」ということ。やはり入ってくる人や経済をいかにデザインするかということに目を向けるべきだと思う。

(品川委員)

皆様のご意見に共感している。各自治体の中に人口集積地域と中山間地があって、富山市も細入、山田、大山という中山間地域もあって、そうした中での都市経営の思想の1つがコンパクトシティだと思う。やはり各市町村が自治振興会や社会福祉協議会に補助金を出すなど一番濃密なネットワークを持っている。各市町村に取り組んでもらえればいいのではないかなと思う。

そして県庁には各市町村が創意工夫して競い合って、地域住民の団体も巻き込んでいろいろなことをするのを応援・後押しして、その好事例をどんどん作ってってもらえればと思う。先ほど申しあげたタブレットとアプリはそんなに予算もかからないし、既にあったりもする。

公共ライドシェアにしてもアプリは山のようにある。よく分からないからとか、人が足りないからとか、面倒くさいからとか、あと声の大きい人にもう補助金を出していてにっちもさっちもいかないからとかいうことではなく、県庁にはうまい旗振りをして進めていただければ嬉しいなと思う。

(西村座長)

私は富山は海のあるスイスだという言い方がすごく好きで、今日みなさんのご意見を伺ってもやはりスイスに学ぶことは多いし、スイスと同じようになれるんだなと感じた。こうした元気が出るような話も並行していかないと、何か問題ばかりに目を向けるとなかなか響かないところもある。ぜひ夢を持ちながら指し示していただくのも大事なかなと思う。

事務局の方から質問事項もあったので、何か答えられるところがあればお願いしたい。

(事務局)

貴重なご意見をいただいた。1つずつの回答は会議の時間もあり割愛させていただくが、全体的なお話の中で、まず地域の資源、エネルギー・農林を含めて、そこら辺をパワーに変えていくべきだと。そして当然課題解決の面もあるが、反転攻勢というか、中山間地域をフロンティアとして、前向きな形で何か表現できるものがあればというご意見をいただいた。検討していきたいと思っている。

また若者、女性という観点も目標としてわかりやすく設定すべきではないかというご意見だったかと思う。しっかり盛り込めればと思っている。

プラットフォーム、ICTとかアプリ、タブレットなどを活用した地域における取り組みについても、もう少し記載していければいいのかなと思っている。

総花的に当然になってしまう部分もあるが、勝ち抜いていくという意味では経済的な視点も非常に重要で、成長戦略会議の議論も踏まえて、中山間地域に落としていくことも大事だというご意見もいただいた。この辺りもしっかり踏まえていきたいと思う。

(西村座長)

みなさんからたくさんの視点、論点をいただいた。それを含めて次回の素案の段階で改訂版をぜひよろしくお願いしたい。

(事務局)

本日は大変たくさんご意見いただいた。誠にありがとうございます。

検討すべきことはたくさんあって、確かに今日お示しした資料も本当にたくさんの項目が書いてある。

事務局としては、観点1と観点3はどちらかという地域が存在していく、残っていくために必要なこと、観点2の地域経済の活性化促進、若者の所得増大というのは地域を伸ばしていく、その地域の価値を上げる、また魅力あるものにしていくということを書いているつもりだが、全部同じように、ダーツと並べてしまっているの、その辺りの理解がなかなか

うまくいってないのかなというのもある。戦略を作っていく上で、前向きというか中山間地域を伸ばしていく、良くしていくというところをもう少し工夫したい。取組みの工夫もあるし、県民の皆さんなどにどう理解してもらうか、そういったところの表現の仕方も工夫したいと思う。

いずれにしても今日たくさんご意見をいただいたので、それを事務局の方で少し整理をさせていただいて、今後さらに中山間地域全体が良くなるような、そういう戦略を作って次回素案をお示ししたいと思っている。また皆さんからご意見をいただければと思う。本日は誠にありがとうございました。